2026 年 4 月 25 日

学校法人東京 YMCA 学院　江東 YMCA 幼稚園

２０２５年度　学校関係者評価（自己評価・関係者評価）報告

学校評価にかかわる学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の改正に伴い、評議員会にて行っていた自己評価を今年度も学校関係者評価委員会を開催（書面）し自己点検評価をまとめましたのでホームページ等で公表いたします。広く皆様からのご指導を賜り、さらに幼児教育の理想に向かっていくための評価といたします。

Ⅰ．本園の教育目標

「主体的に生きる」

A.子どもたちにとって、かけがえのない「幼児の日々」をゆっくり、大切に見守ります。

B.子どもたちの生活＝「遊び」。その中で様々な経験をし、自立する力、社会性、想像力の育ちを支えます。

C.ご家庭の豊かな愛情、先生やお友だちとの深い交わりの中で、自分が大好き！まわりの人も大好き！ともに成長できる心を育みます。

Ⅱ．本年度重点目標と取り組みと評価

Ａ．重点目標

１．日本 YMCA の使命・方針・目標、東京 YMCA Vision150 の方針・目標を基盤に、江東 YMCA 幼稚園の想いの実現のため幼児教育を追求する。

２．日々成長する子どもたちの為に、より主体的に自発的な遊びが展開できるよう工夫し豊かな教育環境を整える。

３．人的環境としての教師の在り方を研究し実践に繋げる。

４．２歳児・満 3 歳児対象の、預かり保育の継続。

５．子育て支援を目的とした朝 8 時からの継続と、夕方 18 時までの預かり保育の継続。

６．業務の効率化の実現。勤務環境の改善。

Ｂ．それぞれの取組状況と評価

１．新入職員を加え、年度初めに改めて日本 YMCA の理念・使命、東京 YMCA の方針・目標を確認し合い、江東 YMCA 幼稚園の想いをしっかりと心に刻み新年度をスタートした。

月ごと、学期ごとの教師会,日々の保育の振り返りなどで園児一人ひとりの成長を確認しながら 1 年間教育を進めてきたことで教職員が一致した保育感で子どもたちと共に過ごすことができた。
また、預かり保育の人数や重要性が増していることから、主任が中心になって、預かり担当スタッフ会を開催するようにした。
子どもたちの成長に不可欠な教育として年間を通しての行事及び年間計画を作成している。豊かな経験から多くの成長がなされるとの想いに重点を置く教育を行っていることから、今年度も行事や年間計画を考える時、「より子どもたちの主体性を重視した保育計画」「どのように考え環境を整えることで子どもたちが、ねらいに沿った豊かな経験ができるか」を教師全員で考え、実践した。また、今年度は「東京すくわくプログラム」にエントリーし、年中さくら組を中心に実践した。

２．オンライン研修や対面の研修も多くなっている。特に前期は東京都の推進する、とうきょうすくわくプログラムに関する研修を多く受け、CODOMON の指導も受けた。また、東京 YMCA の教育・保育事業部全体研修では春に北山ひと美氏の講演をきき、乳幼児から、自分の体、相手の体を大事にすることを伝えていく重要性を学び、秋にはその学びの実践報告会を開催した。
　主任は、熊本で開催の全国 YMCA 教育・保育非管理職研修、東京 YMCA ニュージーランド研修にも参加した。園長は神戸で開催の全国 YMCA 教育・保育管理職研修に参加した。

３．週３日間、2 歳児の預かり保育（2 時間）は、今年度も江東区の「あずかーる」指定事業として開催した。特に週 3 日で午前中のみの 2 歳児クラスに通い、誕生日を迎えると満 3 歳児クラスに移行することで、スムーズに幼稚園の生活に慣れていく流れができた。次年度はいよいよ、国の制度である「こども誰でも通園制度」に基づくクラスとなり更に大きな変更が行われる。

４．昨年度から開始した満３歳児クラスは預かり保育も利用可能なことから、順調に人数を延ばしている。

５．私学助成を受ける幼稚園から、施設型給付を受ける幼稚園に変化していく。利用定員の変更や、保護者への案内、寄付行為の書き換えなど必要な準備を進める一年となった。

６．一昨年度に導入した CoDOMON を更に有効活用するため、ノート PC を 2 台増設し、昨年度中に各クラスに 1 台ずつ導入したスマートフォンも駆使して、お昼寝の状況、保育の記録、園からのお便りの配信などはすべて CoDOMON を通じて行えるようになった。

また、昨年度は主任が担任も兼務していたが、担任意外に主任と新入職員へのアドバイザーの配置が可能になり、土日の行事や研修の後にも、代休の取りやすい環境を確保できた。また、主任が主任業務に専念できるように配慮した。

C．江東 YMCA コミュニティーセンターとの一体化

グローバル化が進む地域社会において多様性を重視する江東 YMCA コミュニティーセンターとして、こどもを中心にしたコミュニティー創設のための働きを行う。八か町のわいわいフェスタに「走り方教室ブース」で協力した。また江東ワイズメンズクラブのロールバックマラリアに園児たちのクリスマス献金のお捧げ、国際協力募金ではバングラディシュ YMCA が運営する７つの小学校（生徒２１０名）、ウクライナ、パレスチナの紛争救済支援、近隣の都立木場公園のチャイルドガーデン（チューリップの球根植え）など、ともに歩む地域社会の実現のために発信するコミュニティーとの協働に幼稚園として継続することができた。

幼稚園関係の中では、江東区私立幼稚園連合、キリスト教保育連盟関東部会東地区に属し、どちらも役割を果たしたが、特にキリスト教保育連盟関東部会東地区では地区長担当園として働いた。

D. 預かり保育の実施　（１号認定対象１４～１６時、新２号認定対象 ８時～１８時）２歳児クラス満 3 歳児クラスの充実など、保護者一人ひとりのニーズに寄り添う更に開かれた幼稚園を目指し継続した。

E．教職員の質の向上。

日々の職員会での各クラス園児一人ひとりの振り返りを共有する。

「江東区」「キリスト教保育連盟」「都私幼連」「東京 YMCA 教育保育事業部」「全国 YMCA 教育保育事業部」の研修や幼稚園独自の勉強会に参加する。

また、今年は特に、深川警察と連携して、安全管理、特に不審者対策について学び、さすまたの使い方を実地に訓練した。また深川消防署と連携し、普通救急救命士の資格が取れる講習を行った。特に普通救急救命については、職員の 1 名に普及員の資格を取得させることができた。

III．総合的な評価と今後の課題

１．親子遠足は近隣の公園にお弁当を持って出かけた。昼食は親子でお友だち同士一緒に楽しく会食した。

2．花の日礼拝の翌日（６月６日）に年長クラスはグループに分かれて訪問し、町会、交番、園医さんなど、お世話になっている地域の方々に感謝の花束をお渡

しした。年中組は園内でお世話になっているスタッフの方々に、また、年少組はおまわりさんにご来園いただき、一人ひとりから感謝の花をお渡しした。

３．運動会は扇橋小学校グランドをお借りし、保護者、地域の方々に沢山の応援の応援をいただきながら開催できた。未就園児プログラム、小学生プログラムも例年通り行った。

４．バザーは、模擬店の飲食も含めてコロナ禍前の状況に戻し２年目、地域の方々にも開放し開催した。今年は幼稚園・コミュニティーセンターに関わる懐かしい方々が大勢お越しくださり、数十年ぶりの再会に喜ぶ姿が沢山見られた。

5. 年長組のお楽しみ保育（幼児教育・組織キャンプ）を 2 泊 3 日で実施、大学生がボランティアリーダーとして、教師とは違う目線で子どもと関ることが特徴である。

Ｂ．保護者会でも以下の行事を行うことができた。

1. 7 月に教職員と保護者との懇親の場、また 2 月には深川消防署の方をお招きして幼児の応急救護についての講演会を開催した。
2. 11 月のバザーではコミュニティセンター他との協力のもと、3 コーナーを請け負った。
3. 7 月には幼稚園で日頃子どもたちに対して行っている礼拝に触れる機会、12 月には牧師をお招きして講和を頂き、在園保護者も聖書に親しむ機会を設けた。

Ｃ．安全対策

１．扇橋小学校のご協力により、小学校の体育館まで避難をする訓練を行うことができた。（幼小の連携、津波対策など）

２．様々な状況（火災・地震・津波など）に対応できるよう、月に一度、避難訓練を実施した。

Ｄ． 施設改修

１．2 階年中組の部屋のエアコンをハイパワー（ダブ）のものに更新し、元のエアコンを 3 階ロビーに移設した。

２．2 階年少組の大人用トイレの修繕を行った

３．外階段の雨水の漏れ出しを止めるために塗装と滑り止めを付け替えた

４．年少うさぎ組のサッシのガラスを一部交換した

５．キッチン及び虹っこのお部屋のサッシ、ガラスの修繕を行った。

E．新制度と園児募集

１．施設型給付を受ける幼稚園に移行するための申請を行うことができた。その準備を通じて、利用定員を変更し、年少から年長まで 25 人、満 3 歳が 15 人の利用定員となった。また、保育料はどの区市町村から通っても無償となった。来園型やウエブでの説明会では、次年度から施設型給付を受ける幼稚園に変わりますとアピールし続けた。

今年度も定員を設けて来園型説明会、ウエブ説明会を行った。体験会では来園されて園内・園庭でそれぞれの想いを持ち活発に外遊びを楽しむ姿、砂場で存分に砂遊びを展開する子どもたちの楽しそうな様子を見て入園を決めてくださる方が多かった。

２．来園型説明会は園庭開放（こぐま広場）と並行して行った。また、園庭開放に並行して、子育て支援プログラムとして、親子体操を 2 回、在園時保護者による親子お話会（読み聞かせ）を 2 回行った。

３．満３歳児が毎日幼稚園に通っているが、２歳児クラス（つくしぐみ）から満３歳児クラスに移行する流れができた。その結果、幼稚園年少組への入園に繋がった。

Ⅳ．学校関係者評価（各委員からの評価）

Ａ．在園保護者

ダンゴムシがいればずっと眺める、水たまりがあれば裸足で飛び込む、絵ははみ出して好きなことを描く。何をやってもいい、ここではそれを制止する人はいません。今年度も徹底的に遊びこむことで、本園の「主体的に生きる」が達成されていたように思えます。子どもの好奇心をただ自由にさせることで満たすのではなく、どうしたら良いのかを自分で考える力をサポートしつつ、それを安全に行える様、常に子どもを見守ってくれる環境がここにはあります。また年長になると仲間を意識させることで、子どもという小さなコミュニティの中で相手への想像力を膨らませ、お互いを思いやる心を育ませているな、という実感が園での行事等を通じて良く伝わってきます。子どもの「いま」を大切に焦らすことなく待つことで、子ども自身がこの園に大きな安心感を持つ事ができる、そういった教育がなされている事が本園を見つめていると良く理解出来ます。

そして幼少期に 3 年間かけ主体性・社会性を通して「心の根っこ」を根付かせた子どもたちが、今後どんな風に成長を遂げてくれるのか、子どもの未来をとても楽しみに思わせてくれる、そういった幼稚園でもあります。

父母会（虹の会）は一昨年から様々な変革を遂げ、本年度は保護者の無理のない範疇で活動を行えたように思えます。ただ、在園保護者のライフスタイルの変化が目まぐ

るしい昨今、全家庭に無理なく平等に参加して貰えるような新たなアイデアの創造は、今後必要不可欠になってくると思われます。
総じて本園への評価は高いものと思われますが、園外への発信力不足は否めません。延長保育の充実・2 歳保育の開始・降園後の多彩なプログラムの存在・先生ともまた違うお兄さんお姉さん的リーダーという存在、まだまだ多くの魅力があることを SNS 等のツールを利用、又はＨＰを刷新する等して園外へアピールして行くことが早急な課題であると考えられます。
大きな愛に包まれたこの幼稚園が、今後もこの地で長く愛され多くの人と繋がり続いていくことを心から願ってやみません。

B．在園保護者

　この幼稚園の「主体的に生きる」という教育目標を大切にしながら、日々子どもたち一人ひとりに温かく寄り添ってくださっている先生方に心から感謝しております。
運動会をはじめとする行事では絵本の世界観の中に子どもたちを優しく引き込み、物語の一員になったような気持ちで参加している姿がとても印象的でした。園生活を通して子どもにとって大好きで大切な絵本が少しずつ増えていくことも親として嬉しく感じています。家でも園で読んだ絵本の内容を子供が楽しそうに話してくれたり、絵本にちなんだ歌を歌ってくれる時間は私たち親子にとってかけがえのないひとときです。
日々の保育の中でも「どうしたい？」「やってみようか」と子どもの気持ちを大切にしてくださっていることが伝わり、自分で考え、挑戦しようとする姿が自然と育っているように思います。
また、お迎えの際には担任の先生からその日の様子を丁寧に伝えていただき、家庭での様子にも気を配ってくださることで園と家庭が同じ方向を向いて子どもを育てているという安心感があります。親としても多くの気付きをいただき子供と共に成長させていただいていると感じます。
毎日「楽しかった！」と全力で帰ってくる我が子の姿を見るたびに、この幼稚園にご縁をいただけてよかったと心から思います。
これからも子どもたちの「今」を大切にしながら、温かく見守っていただけましたら幸いです。

C．在園保護者

　２歳児保育の頃からお世話になっておりますが、一貫して「子どもの今」を何よりも大切に見守ってくださる姿勢に、日々感謝の気持ちでいっぱいです。先生方の温かな声

掛けや子どもへの接し方は、親である私たちにとっても非常に大きな学びとなっており、家庭での子育ての指針として支えられています。そのおかげか、子ども自身の自己肯定感もしっかりと育まれているように感じます。

園での活動も非常に充実しており、特に絵本の世界を大切にされている点が素晴らしいと感じます。クラスのみんなで一つの物語に入り込み、読み終わった後に感想を伝え合うなかで、自分の気持ちと向き合ったり、他者の多様な意見を知ったりと、豊かな社会性が育まれています。また、キリスト教の教えに基づいたお礼拝の時間は、心を静めて過ごす貴重な習慣となり、落ち着いてお話を聞ける成長にも繋がりました。

日々の生活の中にも細やかな教育の工夫が溢れています。食事の際には陶器のお皿を使うことで「ものを大切に扱う心」を学び、あえて顔のないお人形に触れることで、子どもたち自身の自由な「創造性」を膨らませてくださっています。こうした「本物」に触れ、想像力を大切にする経験こそが、心の豊かさの土台になると感じています。

広い園庭での体操や、習い事プログラムといった動の活動においても、常に子どもの主体性を尊重してくださっています。当日の朝９時まで受け付けていただける給食型弁当は、共働き家庭への大きな助けであると同時に、小学校に向けた良い準備にもなっています。

そして何より、この園で得られた宝物は「人との繋がり」です。学年の垣根を超えて保護者同士が非常に仲良く、また卒園後も行事やプログラムに参加できる機会があるため、子どもたちの絆もずっと続いています。卒園してからも、変わらず温かく迎えてくれる大好きな場所があることは、親子共々にとって大きな安心感となっています。これからも、幼稚園、子どもたち、保護者がみんなで手を取り合い、このかけがえのない時間を大切に歩んでいけることを願っております。

E. 理事（学職経験者）

本園はYMCAの理念に基づいて運営されているが、主体性、社会性を育てるという本園の目標に向けてYMCAの機会や資源を具体的な形で本園の諸行事の随所に組み込むことができるのは他園にはない本独自の強みと言えるだろう。お泊り保育では大学生のYMCAボランティアリーダーの協力で園児は歌やゲームで楽しい時間を過ごすことができ、日々の園生活とは違ったバラエティに富んだ経験をすることができるのは本園ならではであろう。

また、YMCA江東ワイズメンズクラブが行っている国際協力事に園児を関わらせているが、世界を見つめる園児の目は将来の国際平和の礎となる。それゆえ、その事業の意味を園児に分かり易く説明してやることが大切である。

礼拝等で宗教理念に基づいた教育を行っている。社会が大切にしなければならない「助け合い、分かち合い」という特定の宗教に拘らない普遍的理念の本質である「愛」を園児に教えることであり、将来良き社会人となる礎でもある。

大切なお子様を預かっているのだから安全対策は最重要事項であるが、施設の改修も適切に実施されている。月 1 回避難訓練を実施しているのは、園内での災害時に取るべき行動を子供たちが身につけるのには大いに役立つ。保護者会が深川消防署の方を招いて幼児の応急救護の講演会を開いたのは、教職員と保護者が一体となって児の安全取り組む姿勢の表れである。
2 歳児、3 歳児の預かり保育は子育て支援という時代の要請に応えたもので大いに評価すべきことである。こうしたことは歓迎されるべきことではあるが、その一方で教職員の過重負担になり兼ねない。教育支援ツールの CoDOMON の活用はリアルタイムで園児の生活状況を保護者に伝えることができるとともに教職員の負担の軽減にもつながるだろう。
少子化、女性の社会進出という社会状況は製造化されており、幼児教育を提供する側にとって厳しい状況は続く。しかし、健全な社会を維持するためには適切な幼児教育は絶対条件である。いかなる厳しい状況の中にあっても、本園はここで学び巣立って行った卒園者たちの心の故郷であり続けなければならない。本園が実施しているホームカミングディには多数の卒園者が集まって来たり、時として訪れた大人の卒園者が本園は私の人生の原点ですと語ってくれるなど、これらは質の高い幼児教育を提供してきた結果と言えるだろう。そうしたことを教師全員が意識して日々の業務に勤しみ、主体的に生きる子供たちを育てるという本園の教育目標に向けて一致協力する体制を崩さないでもらいたい。

F. 地域関係者

幼稚園の教育方針を基に教職員は子どもたち一人ひとりの個性を大切にして丁寧に関わっていることが伝わってくる。幼児期に必要とされることは、いつの世にも変わらないが、少子化と共働き家庭の増加などの時代の要請に応じて幼稚園も柔軟に変化させていっていることが感じられる。たとえば 2026 年度に施設型給付の幼稚園になるよう、準備を重ね、幼稚園の運営の安定化を図った。またこのことにより労働環境の改善が見込まれている。昨年度開設した満 3 歳児クラスは定着してきて、次年度年少を迎える人の半数以上を占めるようになった。また、働く家庭の支援のため、次年度は預かり時間を 30 分延長する計画であるとのことであり、このような運営の努力から保護者からの信頼も厚い。
常に子どもたちの安全を最優先して有意義な活動がなされている。
これからも YMCA の総合力を生かして、地域と一緒に歩んでいってほしい。

G. 園長

YMCA の保育の使命・方針・目標を基に、江東 YMCA 幼稚園の想いを大切にしながら、幼稚園の在りようを変化させ、今の時代のニーズに対応する幼稚園として動き始めて4年が過ぎました。

４年間で、預かり保育の開始、２歳児の受け入れ（江東区あずかーる）、満３歳児保育の開始、お弁当型給食の導入など、さまざま目に見える変化を進め対応して参りました。それと同時に、歴史ある江東 YMCA 幼稚園の教育的想いにおいては、変わることのない「主体的に生きる」ための心身の成長を願い、子どもたちにとってより豊かな園生活となるよう、環境を調え、想いを注ぎ、変わることのない目には見えない部分の充実に更に努めてまいりました。また、その教育・保育を地域に向かって、園庭開放のこぐま広場、多くの地域センターにポスター掲示、園の様子のインスタアップなど、より多く発信することにも努力いたしました。そのことにより、今まで「幼稚園」ということで、子育ての選択肢に入っていなかった子育て世代のご家庭にも情報を受け取っていただけました。園の方針をご理解くださり、自園の環境でお子様の成長を見守り育むことを希望され、他施設から転入される方々も増えています。また、今年度から東京都が主導し、乳幼児の「すくすく（伸びる・育つ）」と「わくわく（好奇心・探究心）」を育む、幼保共通の新しい幼児教育・保育プログラム「とうきょうすくわくプログラム」に年中組が参加いたしました。補助金により、子どもたちの環境を整える設備の充足ができました。電子機器など、新しい道具を使いこなしながら、新しい発見にわくわくしている子どもたちの様子に、プログラムに参加したことにより、新しい視点で環境を整える事ができたこと、子どもたちはその環境を柔軟に受け入れ、さまざまに活用し発見をし、そこから新たな遊びを展開していたことに、その良さを認識いたしました。

江東 YMCA 幼稚園として大切に思う、子どもたちのそのときのありのままの心もちを受け止め、一人ひとりの想いを尊重し、共感し、寄り添う、その安心な環境の中で、さまざまに年齢に適した遊びの環境が工夫される中、自ら学び成長をしていく、その育つ力を信る教育を行い続ける、そのことを大前提としながら、それだけに留まらず、施設型給付の園に移行するなど、今の時代のニーズに対応した教育機関として体制を整えることを継続してまいります。

今年度も頂戴いたしました幼稚園に関わる方々からの貴重なご意見に、真摯に耳を傾け、精査しつつ実践可能なことには速やかに対応してまいりたいと願います。

今後とも皆様の更なるご理解とご協力をよろしくお願い申しあげます。

以上